

グループワークによる葛藤の解決

講師 ジョージア大学教授、東京大学フルブライト研究員 リチャード・ヘイズ

2001. 7. 27

今日は思春期の子どものためのグループガイダンス、グループワークについてお話しします。みなさんが学校現場にもどられて、実際にご自分の教室や活動のなかで使うことができるような具体的な活動を取り入れながら、お話ししたいと思います。

まず最初に、グループワークの主要な前提についてお話しします。人間がどのように発達するかということについて、これから3つお話しします。基本的前提の第一は、人間がどのように発達するのかが、私たちのグループワークの理論と実践のための基本的な概念枠組みを形成しているということです。第二番目の前提になるのが、グループワークというものは、生徒の持っているエネルギーとか生徒の持っている潜在的な力というものをエンパワーしていくといことにおいて、コラボレーション、協働を自然な形で促していく、伝達する手段を提供するものという考えがあります。三番目の前提は、心理学的概念が人間の発達、成長するための一つ的手段として教えられることが可能であるということです。これをもう少し説明しますと、学校というものは本来どういう場所かということ、生徒の発達を支える場所ということがありまして、では、どのように生徒の発達を促進していくのか、助けていくのかということを見ると、それは、こんなふうな生徒になってほしいという基本的な教師側、学校側の期待があって、それに近づけるように生徒を発達させていくということになります。

これからお話しするのは、私がグループワークを取り入れているとき、「体系的／構成主義的アプローチ」と呼びますが、それがグループワークをしていく上で、前提となることですのでこのアプローチについてお話しします。それは欧米だけでなく、日本的な考え方とも近いものではないかというふうに考えています。まず最初に、発達は文脈的であるということです。人間の発達、生徒の発達を考えたときに、その生徒の周りで起きているというよりも、生徒のなかにある何か生徒が持っている力を考えながら、発達ということが起こってくるのではないかということです。二番目は、個人は、自分自身のプロデューサーであるということですが、生徒が発達をして

いく段階で、生徒自身が自分の発達の刺激とか刺激になるようなもの、資源になるようなものをもっていくべきではないかということです。第三に、認知とはさまざまな出来事に対する積極的な関連付けであるということと、第四に意味を生み出すことは自分を進化させることであるということがあります。自分のさまざまな出来事というのは生徒が生きる環境とか身の回りの出来事ということなのですが、それに対して積極的に関連付けを行っていくこと、それにどのような意味づけをしていくか、意味を見出していくかということが生徒の発達の助けになり、生徒の発達に役立っていくという考えかたです。第五は、現実が多様であるということで、生徒は個人個人に個別の体験、経験をもっているわけですが、この経験をどのように理解していくかということ、生徒がさまざまな現実のなかで自分の体験を意味づけていく、理解していくことが大切です。そして最後の前提となるのが、言語が現実を構成するというということです。生徒の経験というものが社会的な経験となってくるわけですが、それを言語を使って生徒が他者に説明していく、他者からの説明を聞くという形になる言語が媒介となってくる自分たちの体験を相手に伝えていくことが大切です。

グループワークがエンパワーメントにおいてコラボレーションを自然に促す伝達手段になるわけですが、私たち教師、それから学校側の人間が生徒にそのような人間になってほしいという思いを抱きながら生徒の成長を支えていくことが大切です。グループワークが生徒にどのようなものを提供するかとすると、協働的な問題解決を生徒がしていくための真の体験を提供する、それから生徒がそれによって自己内省をすることができる、役割を演じる機会が与えられ、自己と他者の認知を吟味するのに役立っているということです。この本物の体験、協働的な問題解決のための本物の体験ということのみなさんに特に感じていただければと思っております。抽象的な意味ではなく、具体的なレベルでのということです。そういう真の体験を通して生徒たちが自分自身についてどう考えるか、自分たちがどのように問題を解決していったらいいのか、それから自分のグループメンバーで

ある他者がどのように自分のことを考え、問題解決していくのかということ協力をしながら、協働しながら体験を通じて学んでいくというグループワークです。

これらの経験を効果的なものとするために必要な構成要素としては、まず、重要な役割演技のための機会と内省の導きです。大切な役割を演じていくことによって、自分たちがどのように行動しているのか、自分たちがどのように問題解決していくかと自分たちのことを振り返っていく、内省をしていくことがプラスされていきます。

次に重要な要素としては、挑戦（チャレンジ）と支持（サポート）のバランスということがあります。生徒の経験に幅を持たせるという意味でのチャレンジということが行われ、それだけでなく、サポートということもとても必要になってきます。生徒にとってこんなことはこ

れまで経験したことがなかった、知らなかった、こんなことやったことがなかったというような経験を教師側が意図を持って新たに経験させるということを行いますので、それが、こんなこと知らないよというような体験で終わることがないように励ましやサポートが必要になってきます。それをしていく上で、考えなくてはいけないのが、3つめの構成要素である連続性の感覚というものです。これは単に1回のことというよりも、6ヶ月から1年、長い期間をかけて行わなければ、生徒がこのグループワークの重要な意味を本当に体験し、感じ取ることができるといのがなかなか難しくなってきますので、グループワークにはかなり時間が必要になってくるということをおきます。発達的变化には時間がかかり、慎重に努力をつづけていくことが必要であると思われま